～ある晴れた日に～

Un bel dì, vedremo

ベスト・オブ・アリア

"The best of opera arias"

Hare Ito Soprano Recital

人気急上昇中の若き歌姫
ザ・シンフォニーホール
初リサイタル！

プッチーニ：歌劇『蝶々夫人』～「ある晴れた日に」
プッチーニ：歌劇『ジャンニ・スキッキ』～「私のお父さん」
プッチーニ：歌劇『ラ・ボエーム』～「私の名はミミ」
ビゼー：歌劇『カルメン』～「何を恐れることがありましょう」
ヴェルディ：歌劇『シチリア島の夕べの祈り』～「ありがとう、愛する友よ」
グノー：歌劇『ファウスト』～「宝石の歌」
シャルパンティエ：歌劇『ルイーズ』～「その日から」 ほか

［ピアノ］仲田淳也

伊藤 晴
ソプラノ・リサイタル

March 21, 2022 The Symphony Hall

2022 3.21（月・祝）14:00開演［13:00開場］ ザ・シンフォニーホール

4,400円（全席指定・税込） ご予約・お問合せ ■ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333（火曜定休） https://www.symphonyhall.jp

プレイガイド ■e+（イープラス） https://eplus.jp/symphonyhall（パソコン・携帯） ■ローソンチケット https://l-tike.com/symphonyhall［Lコード：54300］
■チケットぴあ https://w.pia.jp/t/symphonyhall/［Pコード：201-996］

＊未就学児のご入場は御遠慮いただいております。＊やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。予めご了承ください。 主催：ザ・シンフォニーホール

～ある晴れた日に～

Un bel dì, vedremo

ベスト・オブ・アリア

"The best of opera arias" Hare Ito Soprano Recital

伊藤 晴 ソプラノ・リサイタル

いまが旬の名花を聴ける一期一会

歌手の楽器は自身のからだである。その状態は刻々と変化するから、いまが旬のときに聴ける機会はかぎられる。では、いま旬のソプラノはだれか。真っ先に名が挙がるひとりが伊藤晴だ。ここ数年来、『カルメン』のミカエラ、『椿姫』、『愛の妙薬』のヒロインなどで頭角を現し、2021年には『ラ・ボエーム』と『蝶々夫人』のヒロインが絶賛された。リリックな美声とすぐれたテクニックはそのままに、このところ中音域が充実して、以前から豊かだった表現力がさらに磨かれ、コロナ禍の逆風をものともしない快進撃となった。みずみずしさはそのままに厚みを増した声で、若きヒロインの喜怒哀楽を細やかに、時に力強く、華麗に表現する。そうして聴き手を酔わせてくれるという意味で、伊藤はまさにいまが旬。それも名花の旬となれば一期一会である。聴き逃せない。

文 香原斗志

ザ・シンフォニーホールでの初めてのリサイタル、
春の訪れを待つように心待ちにしております。
心が温かくなったり、高揚したり、
前向きになる曲を中心に選びました。
晴れやかな春のひとときをご一緒できること
楽しみにしております。　　伊藤 晴

伊藤 晴［ソプラノ］ Hare ITO, Soprano

三重大学卒業、武蔵野音楽大学大学院修了。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。ミラノ、パリで研鑽を積み、2013年パリ地方音楽院修了。第9回藤沢オペラコンクール第2位。藤原歌劇団には14年「ラ・ボエーム」のムゼッタでデビュー以降、「カルメン」ミカエラ、「ラ・トラヴィアータ」ヴィオレッタ、「愛の妙薬」アディーナ、「ラ・ボエーム」ミミ、「蝶々夫人」と数々のプリマドンナを演じ、儚くも凛とした姿と歌唱は高い評価を得ている。日本オペラ協会には、「天守物語」亀姫、「夕鶴」つうで好評を博した。また、16年藤沢市民オペラ「セミラーミデ」アゼーマ、18年愛知県芸術劇場「バスティアンとバスティエンヌ」バスティエンヌ、20年チョン・ミョンフン指揮／東京フィル「カルメン」フラスキータなどの他、マントヴァ歌劇場でのヴェルディ・ガラコンサート、バッティストーニ指揮／東京フィル「カルミナ・ブラーナ」、NHKニューイヤーオペラコンサートなど、国内外で活躍を続けている。
藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。名古屋音楽大学講師。三重県出身。

仲田 淳也［ピアノ］ Junya NAKATA, Piano

国立音楽大学卒業。平成17年度文化庁在外研修員として伊・ミラノで3年間C.カメリーニ（スカラ座元音楽監督）氏のもとで学ぶ。帰国後は指揮を星出豊氏に師事し、新国立劇場、藤原歌劇団などの公演に参加。2015年より2年間再度渡欧、独・レーゲンスブルク歌劇場及び墺・ウィーンフォルクスオーパーで指揮者として研鑽を積む。2018～20年に藤原歌劇団の指揮者として文化庁学校公演を28公演指揮。2019年には伊・ブッセートのヴェルディ劇場で「イル・トロヴァトーレ」を振って伊デビューを果たした。今後は2022年2月に日本オペラ協会本公演で「ミスター・シンデレラ」を、4月にジ・インペリアルオペラ／藤原歌劇団公演「蝶々夫人」を指揮予定。現在、昭和音楽大学及び大学院講師。